

## 勝田高校図書館だより

平成30年度 第5号

平成30年8月31日発行



夏休みが終わり、今日からまた通常の学校生活が戻ってきます。今年の夏はとりわけ暑さが身に応えました。「猛暑」という言葉が日常化しましたね。3年生は、夏休み中も課外やAO入試・就職試験の準備等に忙しく、「休み」という実感はなかったと感じている人も多いかも知れません。9月になると、いよいよセンター試験の出願書類を手にし、緊張感が高まることでしょう。1・2年生の皆さんの中には、太陽の日差しを受けて運動に励み、肌の色が一段と黒くなり体力が付いた人もいれば、反対に冷房の効いた室内に籠もっていて、今朝は登校時に漕ぐ自転車のペダルが重く感じた人もいるかも知れません。

9月は、休み明けであることに加え、気温が変わりやすく体調も崩しやすい時期です。心と体の健康を自分で守ることが難しい時期かも知れません。暑さを避け、心もクールダウンを図りたいときには、是非図書館に足を運んでみませんか。いつもは目に入らない本の前で足を止め、今まで出会わなかった物語や自然の世界、知らなかった出来事や知識に触れる瞬間があるかも知れません。新しい世界との出会いは、新たに生きる力を生み出してくれます。元気が出ない日や、意欲が湧かないとき、何に対しても億劫な気分から逃れられないとき、一冊の本が力を生み出すことがあります。図書館も、今日から授業日の開館時間（12:40～16:55）に戻ります。いつでも気軽に訪ねてくださいね。



☆「図書館だより」第3号（6月）でも紹介した、1年生の図書委員がテーマ別に選定した書籍のコーナーでは、『はだしのゲン』（中沢啓治）・『それでも、日本人は戦争を選んだ』（加藤陽子）など、戦争について考えるきっかけとなる図書を展示しています。8月は、戦争や原爆について考えることを避けられない、むしろ避けずに向き合うべき時期ではないでしょうか。重い問題ではありますが、少しでも自分の問題として向き合う気持ちになったときは、是非手に取ってください。☆

- ☆9月のカウンター当番は、3年生が担当します。
- ☆新着本が入りました。是非ご覧ください。
- ☆3年生は、小論文や志願理由書を書くために図書館に足を運ぶ人も増えていきます。進路関係の書籍は館内中央付近にあります。他にも関係する書籍は多くありますので、分からないときは委員や司書の先生に声を掛けてください。

## 九月のうた（和歌）



秋立つ日よめる

藤原敏行朝臣

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

（『古今和歌集』巻第四・秋歌上 169）

意味： 立秋の日に詠んだ歌

藤原敏行

秋がやって来たと、目にははっきりと見えなくても、風の音によって自然にはっと気付かれることだ。

この歌は、『古今和歌集』「秋歌上」の巻頭歌です。「秋歌上」には、秋の歌の前半として陰暦の7月・8月の歌を載せています。この歌は、詞書に「立秋の日に詠んだ歌」とあるように、「立秋」（＝今日から暦の上では秋なのだ。）という知識によって詠まれたものです。しかし、単に知識に基づいて詠んだと言うより、詠み手が感じた「秋」を素直に詠んだという印象を受けます。2・3年生の皆さんは、まず「おどろかれぬる」の「れ」が目に入り、「自発」の助動詞…と文法問題が頭に浮かんでしまうかも知れません。しかし、この「れ」があるからこそ、今日のこの目の前の景色を眺めていても秋の気配は感じられないけれども、今日吹く風の音からは確かに自然と秋の訪れを感じるといふ、詠み手の敏感な感受性と共に、爽やかに吹く秋風を感じさせているようにも思えます。後に、秋の歌の代表格となる作品ですが、確かに知識と感覚が自然に結び付き、現代でも共感を誘う一首と言えます。



今年の立秋は8月7日でした。とは言え、それに気付かないくらい厳しい暑さが長く続き、いつになったら秋が来るのかと思っていた人も多いでしょう。しかし、2週間ほど前、急に湿度が下がり、空も雲も表情を変えた日がありました。台風が訪れる度に気温も湿度も大きく動き、まだまだ日中は暑い日が続きますが、ふと気付けば、空は青さを増し、夜には虫の音が聞こえます。朝晩は少しずつ過ごしやすくなっています。私達の毎日も、同じようなところがあるのではないのでしょうか。どんなに楽しいことも、また辛いことも、熱中したことも、退屈でならなかったことも、苦痛だったことも、時が過ぎ季節が移ろう中で少しずつ少しずつ薄らぎ、また新たな何ものかの訪れに気付く、そんなことの繰り返しと積み重ねなのかも知れません。楽しいときも苦しいときも、それに対して最も強く反応している心の中のある部分とは異なる感覚・感性を働かせてみれば、見えなかった何かに気付く、心を緩めるきっかけになるかも知れません。季節の変わり目には、そんなもの思いがつきまといます。

ところで、このように立秋と秋風を結び付けて詠んだ例は『万葉集』にはないそうです。こういった観念による趣向を織り込んだ歌は、やはり『古今和歌集』以降の特色と言えます。皆さんの好きな歌はどのような歌でしょうか。季節の歌を思い浮かべるのにはよい季節になりました。心に寄り添う、自分だけの一首と出会えますように。